

はじめに

獣医臨床繁殖学は獣医繁殖・産科学 (Veterinary Reproduction and Obstetrics あるいは Theriogenology) とも言い、動物の生殖に関わる生理と病理を探究し、関連する疾患の病態解明、診断、治療や予防法の開発および群単位での繁殖成績の向上や繁殖制御法の開発に貢献する学問です。

産業動物の現場においては繁殖が生産と経営に直結することから、効率的な繁殖管理が求められます。農場規模が拡大傾向にある昨今においては一層その重要性が増しています。また、伴侶動物では避妊法が必要とされる一方で、動物の子を望むクライアントには受胎を促進するための対応が求められます。さらに、各種の野生動物や動物園飼育動物においても状況に応じて繁殖を促進あるいは制御することが求められます。従って、動物の生殖周期を理解し、そのサイクルをいかに回していくか (あるいは調節していくか)、その手立てを考えること、そしてそのサイクルの進行を阻む様々な要因に対する理解を深め、対策を講じるための知識や技術を身につけることが重要です。本書がその一助になることを願っています。

この分野の教科書としては、『動物臨床繁殖学』(朝倉書店)や『獣医繁殖学』(文永堂出版)などが国内の獣医学教育において広く活用されています。「獣医学モデル・コア・カリキュラム」に準拠した本書においては、共用試験に対する準備として必要な基本的項目に記述を絞りつつ、必要に応じて今の獣医学生や臨床家が知っておくべき最新の情報も掲載するように心掛けました。また、視覚に訴えるために図表や写真をできるだけ取り入れるようにしました。本書のために書き下ろした新しい図表等も少なからず掲載しています。このような理由から本書は獣医学生のみならず、多くの獣医師にとっても有用な書籍になったのではないかと考えています。本書を上述の教科書と併用することで獣医臨床繁殖学における理解がより進み、そして深まることでしょう。

本書の上梓にあたっては、執筆の労をお願いした永野昌志、羽田真悟、村瀬哲磨の各先生、そして図表や写真をご提供いただいた先生方に深く感謝申し上げます。最後に、本書の企画から出版までの過程においてご協力をいただいた文永堂出版社長の福 毅氏、担当の松本 晶氏およびスタッフ一同に心より感謝申し上げます。

2019年5月

企画・編集を代表して 大澤健司